

諫早市教育委員会議事録  
令和7年第2回（2月定例）

# 令和7年第2回（2月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和7年2月28日（金）  
15時00分～16時40分
- 2 場 所 諫早市役所 8階 会議室8-2
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭  
委 員 原田 裕介  
委 員 山口 秀雄  
委 員 中野 高子  
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員  
教育次長 石橋 芳秋  
教育総務課長 新野 純子  
学校改革推進室長 池 政信  
学校教育課長 田上 顕二  
生涯学習課長 竹島 健吾
- 5 議 題  
報告第1号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申し出について（諫早市奨学金貸付基金の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例））  
報告第2号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申し出について（諫早市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例））  
報告第3号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申し出について（「令和6年度諫早市一般会計補正予算（第8号）」中、11款教育費及び12款災害復旧費））  
報告第4号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申し出について（「令和7年度諫早市一般会計予算」中、11款教育費））  
議案第1号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び

評価について

議案第 2 号 諫早市立小・中学校の通学区域に関する規則の一部  
を改正する規則について

議案第 3 号 令和 7 年度県費負担教職員の人事の内申について

## 議事録署名人の指名

原田委員と小野委員を議事録署名人に指名

## 議事の非公開

議案第3号は人事案件であるため非公開

## 議事録の承認

令和7年第1回（1月定例）教育委員会の議事録について  
中野委員から自身の発言について修正の意見あり  
一部修正を了承の上可決

## 教育長の報告の要旨

### 《教育長の報告》

今回は4点挙げている。まず、令和6年度補正予算、令和7年度当初予算で学校活性化ということであるが、3月に市長選挙、市議会議員選挙を控えているため、令和7年度当初予算は骨格予算になる。

6年度補正予算については、防災機能強化事業を引き続き行う。内容は屋上や外壁の改修工事で、予算を7年度に繰り越して、真崎小、真城小、森山西小で実施する。また、環境改善事業としてトイレの洋式化工事は、同じく予算を繰り越して北諫早中、真城中、喜々津中、高来中で実施する。なお、トイレの洋式化工事は、これまで毎年3校から4校ずつ行ってきたが7年度で終了となる。

次に7年度当初予算については、食物アレルギー等により弁当持参をしている児童生徒の保護者に給食費相当額を支援することとし

ている。また、1人1台タブレット端末の更新整備を行う。約1万2000台を令和7年度中に更新する。費用は約8億円で5年のリース契約になる。タブレットは5年目を迎えて故障が増えてきており、文科省も5年という更新の目安を示しているので諫早市もそれをもとに更新したい。長崎県では早い方ではないかと思っている。

また、教室で学習することに不安のある子供が、校内の別室で生活、学習するための支援を行う校内教育支援センター指導員「SSR」に係る予算を計上している。SSRについては、「広報いさはや」3月号で募集をしているのだが、令和7年6月から令和8年2月までの期間で5名の任用を予定しており、特に不登校の子供が多い学校で勤務してもらうこととしている。学級には入れないけれども学校には来ている子供たちに対して今まではどうしているかという、授業の空き時間の先生がいろいろな学習や面倒を見ており、先生の空き時間がなくなるということもあって非常に負担になっていた。そういった先生方の負担を減らすという意味でも、SSRというのは有効な施策ではないかと考えている。

それから、学校運営協議会委員の報酬を新たに予算計上している。これは、いわゆるコミュニティスクールで、現在、法律でも努力義務化されている。将来的には全ての学校で設置されるのではないかと思う。諫早市では学校支援会議というボランティアで学校を支援していくという制度があり、非常に活発に活動をされていた。大変ありがたいことなのだが、ボランティアであるし徐々に高齢化してきている。従って、学校運営協議会はどういうことをするのかも法律で決められているので、その委員に対して1回の出席につき2,000円の報酬を支払うよう考えている。回数は年間3回を考慮しており、各学校で20人ぐらいの委員を決めて、学校の運営に携わっていただくということである。

今、学校の運営について諮問をしたり、意見をいただいたりする学校評議員がいらっしゃるが、学校運営協議会を導入した学校では、人選的にも重なるし内容的にも似たようなものになるので、学校評議員は廃止することになる。来年度も学校運営協議会を導入する学校が結構あり、諫早市も急速に立ち上げが進んでいる。

次に、遠竹小学校は2月16日、長里小学校は2月23日に閉校記念式典あった。4月からは新生小長井小学校が誕生し、その3年後は義務教育学校ということになる。

簡単に両校の閉校式典の様相を紹介する。

152年の歴史を誇る遠竹小学校と長里小学校の閉校というのは、歴史を閉じることの重大さや責任の重さなどがあり、様々な方々が

いろいろな思い、複雑な思いで当日を迎えたのではないだろうか。会場には両校とも学校関係者、保護者、市長、市教委、県議会議員、市議会議員教育厚生委員会のメンバー、歴代校長を初め教職員、そして中学生、高校生などの卒業生、多くの地域の方々が参加されていた。両校とも2部形式で行い、1部は厳粛な記念式典であった。児童代表が自分の学校への愛惜や次なるステップへの思いを力強く語った後、遠竹小学校では江口校長、長里小学校では紙永校長の感動的な謝辞が参加者に届けられた。そして、PTA会長及び自治会長がそれぞれの思いを述べられ、グッとくるものがあった。その後、校長から市教委へ校旗が返還された。さすがに校旗返還のときには感極まるものがあった。

2部は学校が企画した記念イベントが行われた。遠竹小学校では子供たちの学校歴史クイズ、全員参加の長縄跳びがあり、長縄跳びは一発勝負だったけれども、大勢が見ている中で300回を超す回数を跳び続け、子供たちの集中力、運動能力の高さは本当に素晴らしいと感じた。最後は体育館で校歌を斉唱して、その後運動場で浮立が披露され、その周りを子供たちが一輪車で回って、参加者が取り囲んだ。そして、風船を飛ばしてフィナーレであった。

長里小学校は、諫早吹奏楽団が子供たちの要請で参加されていた。長里物語として子供たちが劇を披露し、長里小学校の歴史がつぶさにわかる演出がされて、会場は笑いと感動と涙に溢れた。また、廃校後の跡地活用についての子供たちの提言も行われた。最後は、諫早吹奏楽団の演奏による参加者全員での校歌の合唱があり、感動の瞬間であった。私自身この閉校式典は非常に重いものであったのだが、式典での子供たちの姿を見て閉校しなくてもいいのではないかと思うぐらいの爆発的なエネルギーを感じた。学校と保護者と地域が一体となった私が理想とする学校の姿であったと思う。どうしてもこんな学校が廃校になるのかと初めて立ち会った人は思ったかもしれないが、閉校式典という目標があったから出きたとも言えると思う。何もなければそのエネルギーは生まれなかったのではないかという思いを抱いた。

そして、PTA会長が挨拶の中で「同性が誰もおらず子供が転校を言い出したときに心が揺れた」という話をされた。やはり人間はいろいろな多くの人たちの中で交わったり、いろいろな考えとか思いとかを深慮し、そういうものを切磋琢磨したりしながら磨いていくということである。競争も必要であり人間の成長には欠かせないのではないか。しかし、小さい集団なのですごくかわいがられて育っている。成績も良い。複式授業で成績が両校とも良いということ

は、少人数教育は悪くないなという感じがするけれども、大勢の中でたくましく生きていく、そして切磋琢磨する。自分よりもっとすごい人がいるということを感じることも大事なことのかなと感じた。いろいろと思う2日間であった。ただ、これはゴールではなく、次に新生「小長井小学校」を作る。つまり、今回の遠竹小学校と長里小学校と小長井小学校が、吸収合併ではなく3校で統合するということである。そのことは今日の校長会でも校長先生たちに伝えた。それぞれの学校が統合して新しい小長井小学校を作っていく。そして、3年後に中学校を加えて新しい義務教育学校を作る。そのために教育環境を整える。その一つが校舎及び体育館建築である。先ほど設計図等を少し見た。時期がきたら委員の皆様にも見ていただくが、新しい校舎を作って教育内容を充実させて、統合して良かったなと思ってもらえるよう私達は努力していきたい。

3番目。浜教育文化賞と栗林スポーツ賞、その前に浜文化章があり、今回、諫早交響楽団が受賞をされた。浜教育文化賞は個人が54人、団体が5人。それから、栗林スポーツ賞は、小学生が個人21名10団体、中学生が個人43名9団体、高校生が個人5名3団体受賞された。今回は森山スポーツ交流館で支障なく開催したが、来年は諫早文化会館で行う。

2月の行事について。高校入試の学力検査が18日、19日にあり、合格者発表が3月5日にある。高校入試は先に推薦入試があって、今回学力検査の入試があっているけれども、倍率を見ると県下の55校の学校の中で倍率があるのが10校であった。あとの学校は定員を割っていて非常に危機的な状況だと感じた。特に、離島の学校はほとんどが半分以下ということで競争原理が働いていない。そうなるとう勉強しないということになるのかもしれない。

もう一つ、国会で今審議されている高校の授業料無償化の問題で、これは公立高校にとっては非常に打撃だと私は思う。無償化は子供たちが経済格差なく学べることになるので良いことなのだが、公立の強みは何だったかという授業料の安さである。それが、私立も来年度から1年遅れで無償化が実施されることになると公立の良さが薄れ、例えば、スクールバスも公立は出せないけれども、私立は玄関のそばからスクールバスが出るというところがあり、私立人気というのは今非常に高い。考えてみれば長崎県は、公立が今までずっと有利だった。大体の子が公立に行ってしまう風潮があったが、東京を含め関東や大阪辺りは私立の方が圧倒的に数も多いし、勉強面でも力を入れている学校があるので私立の人気は高い。若しくは国立である。だから、そういった面では公立高校の生き残りについて

ては非常に正念場を迎えているなという感じがする。そのことについて、先日県の教育長と少し話をする機会があったのだが、同じようなことを考えておられて、しかし、高校の授業料無償化の法案はおそらく国会を通ると思うので、いろいろな工夫をしなければいけないという話をされておられた。

今月の言葉ということで「私の教育への思い」についてだが、2月の市議会定例会で永尾議員から、教育長の教育方針や思いについてという質問があった。今までで一番嬉しい質問で、私の思いを聞いてもらえないかなと思っていたところ、将にそのままの質問があったので思いを語らせてもらった。特に、学校だけで子供たちの教育が完結した時代というのはもう終わっているのではないかと思い、こどもを真ん中にして、学校を中心としながら、保護者、PTA、地域住民がスクラムを組んで固い絆で教育を行っていく。このことが一番大事な事かなということと、私も今まで教員として中学校、高校、大学と過ごしてきたので、そういった経験を生かしながら幼稚園、保育所から小学校、中学校、高校、大学に至るオール諫早で「教育のまち諫早」を実現したい。市内はもとより市外からの児童・生徒・学生が集う魅力あふれるまちにしたいと考えている。そして、市長が目指す郷土の近未来像「育ててよし！」の部分を教育の面から力強く推進していきたいという答弁をさせていただいた。

出生率に関してだが、諫早に生まれた子供は700人台まで減少したこともあり、今度卒業する小学6年生は1,194人。だから、400人ぐらい少ない。今日の新聞に大きく載っていたのは日本全国同じように減っており、72万988人で前年から3万7,700人程度、全体で5パーセント減っている。長崎県も減っている。ただし、私はあまり悲観的には考えておらず、諫早では社会増もみられる。確かに自然減はしているが、3月、4月を除けば諫早は社会増となっている。3月、4月は高校生等の若者が転出するので減になるけれども、他の月は増えてきている。また、京セラが今度進出してくるし九州最大級と言われる商業施設もできる。それから、ソニーが拡大基調であり半導体業界もいろいろと動きもあるようなので、そういうことで人が入ってくると、子供たちの数も増えるのではないかと思う。そのためには、市長がされている土地規制の緩和が大事なところかなと考える。今日の校長会では、そういう人たちが諫早に来て、「諫早の教育は良いですよ」と言ってもらえるように「小学校、中学校も頑張りましょう」という話をしたところである。統計だけを見ると暗い気持ちになるけれども、県内では諫早の減り方は大村の次ぐらいで悪くはない。しかし、減っているのは事

実なので、何とかしないといかけないと思っているところである。

## 《教育長の報告に対する質問・意見》

### [委員]

タブレット端末に対しての質問だが、今回更新で導入されるタブレット端末は、今までと同じクロームブックになるのか。また、5年間のリース契約ということであるが、今まではリース契約ではなかったのか。もしリース契約でなかったのなら、なぜ今回リース契約になったのか。

### [学校教育課長]

同じクロームブックと考えている。また、一度に購入することもできるのだが、その年度の負担が大きくなるため、リース契約にすることにより支払いを分割して、1年度の負担を分散する方法で更新するというところで財政課と調整したものである。

### [教育長]

もう一つ、リース契約にするとリース会社が持つことになるので、修理等はリース会社がすることになる。これはメリットだなという感じがする。タブレットも年々性能は良くなっている。だから、同じクロームブックでも動作が早かったりすると聞いている。

### [委員]

閉校式典の関係で、廃校後の施設の利用について子供たちから提案があったとのことだが、地元の子供たちからどういう提案があったのか。

### [学校改革推進室長]

長里小学校の子供たちに廃校後の利活用の発表をしてもらったのだが、その中では、道の駅にするとかプールを養殖場にするとか、また、学童として使えないのかとか子供たちなりの自由な発想で発表があった。子供たちの純粋な意見は、今後の参考にさせてもらいたいと思っている。

### [委員]

少子化が問題となっているが、諫早市の出生数は、新型コロナ流行前までほとんど減少していなかった。令和6年度の心電図検診の受診者は小学1年生と中学1年生のどちらも1,150人程度でほぼ同じであったが、新型コロナウイルスの流行が始まってから諫早市の出生数も減少して1,000人以下となり、令和4年度は800人未満と推定されている。現在も全国的には出生数の減少が続いているが、諫早市の出生数は、令和5年度から回復傾向となり、令和6年は900人以上に増加し、今後1,000人以上に回復する

ことが期待できる。諫早市は小中学生が一時的に減少するが、回復する可能性が高い。

[教育長]

コロナで出生数が減ったというのは、結婚式が少なかったということなのか。

[委員]

結婚式を挙げるのが難しいということに加えて、コロナ禍の中で子供をつくるという選択がかなり減ったのではないだろうか。

[委員]

産婦人科に行くことができない時期もあった。

[委員]

一番厳しいときだと、外出することも憚られる時期があった。だから、ちょうどその頃の1年間のところが多分一番少ない。

## 教育次長の報告

令和6年度一般会計款別内訳及び令和7年度調書予算一般会計款別一覧表について

質問・意見なし

## 議 事

報告第1号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申し出について（諫早市奨学金貸付基金の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例））

教育総務課長 説明

質問・意見なし

了承

報告第2号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申し出について（諫早市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部

を改正する条例))

学校教育課長 説明

質問・意見なし

了承

報告第3号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申し出について（「令和6年度諫早市一般会計補正予算（第8号）」中、11款教育費及び12款災害復旧費））

教育総務課長 説明

質問・意見なし

了承

報告第4号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申し出について（「令和7年度諫早市一般会計予算」中、11款教育費））

教育総務課長、学校教育課長及び生涯学習課長の順に説明

質問・意見なし

了承

議案第1号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

教育総務課長 説明

質問・意見なし

原案どおり可決

議案第2号 諫早市立小・中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について

学校改革推進室長 説明

質問・意見なし

原案どおり可決

[非公開議事]

議案第3号 令和7年度県費負担教職員の人事の内申について

学校教育課長 説明

削除

原案どおり可決

## その他

教育総務課長

- 1 令和7年度長崎県市町村教育委員会連絡協議会の理事の選出について
- 2 3月定例教育委員会の日程について

16時40分閉会